

海上の杜技術士会 第10回 技術研修会

講演要旨

平成28年 6月 4日

於：愛知県産業労働センター
ウインクあいち 1201 会議室

海上の杜技術士会



海上の杜技術士会 第10回 技術研修会 次第

(平成28年6月4日 於:愛知県産業労働センター ウィンクあいち 12階 1201会議室)

- | | | |
|--------------|---------|------------------------------|
| 13:45～13:55 | 開会あいさつ | 玉木 伸秀 会員 (S49 卒) |
| 13:55～15:05 | 基 調 講 演 | |
| | 演 題 | 環境づくりの科学・技術・芸術 |
| | 講 師 | 熊谷 洋一 先生 |
| | 所 属 | 東京大学 名誉教授
兵庫県立淡路景観園芸学校 学長 |
| 15:05～15:20 | 質 疑 応 答 | |
| 15:20～15:25 | 休 憩 | |
| 15:25～16:35 | 記 念 講 演 | |
| | 演 題 | 社会実装に向けた地盤環境工学の在り方 |
| | 講 師 | 中村 吉男 先生 |
| | 所 属 | 愛知工業大学工学部土木工学科 教授 |
| 16:35～16:50 | 質 疑 応 答 | |
| 16:50～ 17:00 | 理事あいさつ | 横井 利文 会員 (S52 卒) |



土木学会 継続教育プログラム
認定番号：JSCE16-0303 (3.2 単位)

基調講演

環境づくりの科学・技術・芸術

講演者 熊谷 洋一 先生

(1) 講演要旨

環境づくりの基本として、科学(真)、技術(善)、芸術(美)に配慮してデザインすることが望まれる。自然を手本とする造園学のアプローチは、環境づくりにとって極めて示唆に富んでおり、平安時代の作庭記は、現在の生態学さらには生物多様性の考え方に通じる。土木分野での近自然工法にも参考になることが少なくない。従来の土木・建築・造園デザインの流れを追いながら、今後の環境づくりの目指す方向を考えてみたい。さらに専門家の養成についても紹介してみたい。

(2) 講師 Profile

氏 名:熊谷 洋一 (くまがい よういち)

職 歴 等:昭和 48 年 3 月 東京大学農学部 卒業
昭和 62 年 3 月 農学博士 東京大学
平成 8 年 4 月 東京大学大学院・農学生命科学研究科 教授
平成 9 年 4 月 東京大学農学生命科学研究科 教授
平成 11 年 4 月 東京大学大学院・新領域創成科学研究科 教授
平成 17 年 4 月 兵庫県立淡路景観園芸学校 学長
平成 18 年 4 月 東京農業大学 教授/東京大学名誉教授
平成 25 年 4 月 (一財)自然公園財団 理事長
現在に至る

委員等経歴:環境省中央環境審議会自然環境部会長
文部科学省文化審議会名勝委員会委員
東京都公園審議会委員
東京都新宿区みどりの推進審議会会長
東京都新宿区教育委員長
神奈川県環境影響審査会会長等 ほか

著作・論文:自然環境の評価と育成(東京大学出版会)、森林風景計画学(地球社)、森林保護学(朝倉書店)、現代幸福論(東京大学出版会)など多数

記念講演

社会実装に向けた地盤環境工学の在り方

講演者 中村 吉男 先生

(1) 講演要旨

東日本大震災（2011年）により発生した災害廃棄物等の処理にあっては、再生利用を前提とした中間処理が行われ、復興資材として被災地における海岸堤防、海岸防災林復旧や圃場整備事業などの公共工事に逐次利活用が進められている。一方で、中間処理された分別土には、除去しきれない木片等の可燃物の混入や自然由来と考えられるレベルの重金属等を含有しているものがあり、地盤材料としての利活用において未解決な問題が残されている。また、リニア中央新幹線、東京外かく環状道路、東京オリンピック等の大規模事業においては、土壌環境基準を超過する自然由来重金属を含有する土壌の発生が年間200万t以上、平成34年までの総量として2800万t以上発生する可能性があることが指摘されている。これらは、現状の有姿や利用形態が十分議論されないまま、汚染土壌としての処分や管理型処分場への搬出等の過剰な対策がとられる傾向があり、結果として社会コストの増大を招く。本講では、分別土や汚染土壌の取扱いについて、実際に生じている課題、今後生じるであろう課題の解決を進める上で、合理的かつ社会的に受容される措置の推進に向けた地盤環境工学の在り方について議論するものである。

(2) 講師 Profile

氏 名: 中村 吉男 (なかむら よしお)

職 歴 等: 昭和57年 3月 愛知工業大学工学部土木工学科 卒業
平成23年 3月 博士(工学) 愛知工業大学
平成24年 5月 株式会社アイコ 代表取締役社長
平成28年 4月 愛知工業大学工学部土木工学科 教授
現在に至る

資 格: 技術士(建設部門)取得

著作・論文: 災害廃棄物から再生された復興資材の有効活用ガイドライン(地盤工学会編)、掘削斜面内の応力・変形挙動ならびに安定性評価に関する研究、アスファルト表面遮水壁型アースダムの地震被害と補修など多数